

- 52 東国と九州と、隔たること三千里。
- 53 君と別れて以来、あまたの月日がめぐり
- 54 我ら二人を隔てて重なり合う幾山河。
- 55 思い起せば昔、東国へ赴任する君と別れたとき
- 56 君が（私より先立って）傷つき死んでしまうなど、どうして想像できたであろう。
- 57 君はひっそりと黄泉の地に入ってしまった
- 58 私は目まぐるしく泥土に棄てられる身になった。
- 59 西の空の果てにいる私と地下にいる君。
- 60 その君の訃報を聞いたとたん私は声をあげて泣きだした。
- 61 泣きやんで昔を回想すると
- 62 君の、ある言葉が耳朶に残っている。
- 63 君は言った「私はあなたから人知れぬ恩徳を蒙りました。
- 64 （私の）生命ある限り、いや、死んだ後であってもあなたのご恩には必ず報いたいと思っております」と。
- 65 君の魂に靈が宿るのなら
- 66 どうかこの昔からの友を忘れないでほしい。
- 67 そして願わくば、私が本性をしっかりと保ち続け
- 68 ゆらぐこと無く、しっかりと私が信念を貫けるように私を支えてもらいたい。
- 69 もし、この私によこしまな振るまいがあると見たならば、